

はらま ぢ 駅路に

引き舟渡し

ただの 直乗りに

いも 妹は心に 乗りにつけるかも

作者未詳(巻十一・二七四九)

り」という表現の効果を強調しています。

古代の日本では、河川を渡る施設としての橋は限られた重要な場所にし設けられなかったとされます。橋以外の渡河手段について

この歌は、舟に寄せ

て歌い手の思いを述べ

た歌の一つで、後半の

「直乗りに(びったり

と隙間無く)彼女の存

在が私の心に乗った」

を引き出すために、前

半の「駅路に引き舟を

渡すように直乗りに

(まっすぐ進む)」と

いう表現を用いていま

す。「直」の意味が前

半では「直線的に」、

後半では「直接的に」

と異なっており、「直

乗り」という両義性の

ある言葉を用いて後半

部を導き出す点が表現

上の特徴です。

駅路とは、中央と地

方をつなぐ交通・通信

手段として古代の日本

国家が全国に設けた道

路です。駅馬と呼ばれ

た早馬が高速で走行で

きるよう、可能な限り

やまと
万葉がたり

一直線に造られまし

た。公的な使者の証し

として駅使に与えられ

た駅鈴を鳴り響かせな

がら駅路を一直線に疾

走する駅馬の姿は、古

代の人々にとって印象

深かったらしく、『万

葉集』には駅馬を主題

とする歌が複数ありま

す(巻十四・三四三九

番歌、巻十八・四一一

○番歌)。直乗りにま

っすぐ進むというこの

歌の前半部は、当時の

人々が直線状の駅路を

よく見知っていたこと

を踏まえた表現と言え

ます。

この歌からは、駅路

が河川と交差する地点

に「引き舟」が設けら

れていたこともわかり

であることが、「直乗

り」という表現の効果

を強調しています。

ます。引き舟とは、河

川の両岸に綱を張り、

綱をたぐって対岸に渡

る仕組みの舟を指しま

す。舟の進路を安定さ

せるため張力を保つよ

う、綱は一直線に張ら

れました。駅路と引き

舟の綱がともに直線状

であることが、「直乗

り」という表現の効果

を強調しています。

古代の日本では、河

外を渡る施設としての

記した古代の文献は少

なく、この歌は駅路の

渡河点に引き舟が設け

られていたことを示す

史料として、貴重な内

容を伝えていると言え

るでしょう。

(泉立万葉文化館主任

研究員・竹内亮)

【訳】駅路に引き舟を渡してまっすぐ進むよう

に、彼女は私の心にびったり乗ってしまつたよ。